

ふるさと講座・歴史系第1回目

歴史の道を歩く 江戸時代のバツケ！

～野付通行屋・番屋跡遺跡を訪ねる～

道内でも珍しい江戸時代の遺跡を訪ねます。また、野付半島の春の息吹も感じられることと思います。



- 日時 令和2年4月19日(日)
午前9時30分～午後1時
 - 場所 野付半島
(集合-野付半島ネイチャーセンター2階)
ネイチャーセンターでお話の後、遺跡に移動します。
 - ガイド 別海町郷土資料館 石渡 一人
 - 参加料 100円(保険料)
 - 定員 30名
- 電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を4月16日(木)までにご連絡ください。
- その他 長靴を必ず着用下さい。草分け道や海岸を5kmほど歩きます。ウォーキングにも最適です。
 - 本事業は、根室振興局北方領土遺産ツアーも兼ねています。

遺跡の見どころ！

野付半島は、全長26kmの日本最大の砂嘴(さし)(海上に長く突き出した形状で砂が堆積して出来た半島)です。

半島の先端には、国後島へ渡るための要所として、寛政11年(1799)に幕府によって設置された「野付通行屋」の遺跡が残されています。

この遺跡は、2003～2005年に海岸浸食を受け崩壊の恐れがあり、遺跡の半分を発掘調査しました。

遺跡の半分は、今でも現存し、当時のお墓、建物の跡、畑の跡を見ることが出来ます

今回のツアーでは、遺跡にまつわるお話と現地の見学により、幕末の当地の様子を知っていただきたいと思ひます。

- 1999年頃の野付通行屋跡遺跡(写真上左)とお墓(写真上右)など

●令和元年度特別展「北の開拓地で生命をおかえる-拓殖産婆と開拓保健婦たちの足跡-別海町お産の歴史-」移動展のお知らせ! ・中央公民館 4月1日(水)～12日(日)

郷土資料館をご活用ください！

郷土資料館は、施設の一般公開のほか、出前講座や出前移動展など、みなさまの希望に応じて実施しております。限られたメニューではありますがご活用ください。

●出前講座！

当館スタッフが学校(学級レクも可能)や地域の各団体へ出向いて講座を実施します。現在、下記メニューにより、別海町の歴史や自然をわかりやすくお話しします。

家族ぐるみや少人数の場合は(10人程度)、郷土資料館でも実施できます。メニュー以外でも希望がありましたらお電話で問合せください。

1. 昔々のべつかい

2. 幻の町キラクを探るー野付通行屋跡遺跡の発掘調査から

3. 加賀家文書とは？

4. べつかい缶詰物語

5. 西別川の献上鮭について

6. アイヌ文化ー

チャシ跡と別海アイヌの人々

7. 根釧パイロットファームについて

8. 化石にふれよう

9. 巣箱づくり



(写真) 昔々のべつかい
土器や石器にふれる
火おこし体験

●出前移動展！

1. 絵本雑録記～加賀伝蔵が見た風景～

2. 江戸時代のノツケを探る～野付通行屋跡遺跡発掘調査から～

3. 近世の別海を探るⅠ～ニシベツ・ベツカイ篇

4. 近世の別海を探るⅡ～海岸線篇

5. 近世の別海を探るⅢ～野付半島篇 6. 西別川の献上鮭

7. 義経伝説とヲ子コイチャシとチフルチャシの物語

8. 知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史

9. 別海町の農業の変遷をたどるジオラマ展 10. 終戦70年～別海と戦争

11. アイヌ文化-床丹1チャシ跡発掘調査から- 12. マンモスゾウがいた頃

13. 小澤彦三が見た昭和初期のべつかい

14. 北海道の名付け親松浦武四郎が見た根室

15. 北の開拓地で生命をむかえる-拓殖産婆と開拓保健婦たちの足跡～別海町お産の歴史～



マンモスゾウがいた頃

詳しくは、ホームページ
もご覧ください。

別海町郷土資料館だより No.249

発行日 令和2年4月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

コロナウィルスが猛威をふるって先行き不透明な昨今です。幕末に天然痘が流行し、日本の医師たちは人々を助けようと試行錯誤し、牛種痘という予防接種を見つけ出し、蝦夷地のアイヌも大勢助けられたと記録に残っています。感染防止し、早い終息を願います。